

地域作業療法学を受講したにも関わらず 地域作業療法に関わりたいたと思わなかった理由 —質問紙調査結果のテキストマイニング分析—

田島明子1)、慶徳民夫2)、いとうたけひこ3)

1) 聖隷クリストファー大学、2) 山形県立医療保健大学、3) 和光大学

全国リハビリテーション学校協会
第30回教育研究大会・教員研修会
2017年8月31日(木)～9月1日(金)
新潟医療福祉大学

目的

日本作業療法士協会は作業療法5カ年計画、第二次作業療法5カ年計画を策定し、地域生活移行・地域生活定着支援の推進をしている。しかし地域で働く作業療法士数は伸び悩んでいる。

そこで本研究では地域作業療法の発展に貢献する地域作業療法学の教育方法の開発を目的とし、地域作業療法学を受講したにも関わらず地域作業療法に関わりたいと思わなかった理由を明らかにした。

対象と方法

【対象】 山形県内作業療法士を対象とし、2016年7月に行われた「地域作業療法に対する意識と実践に関する調査」の結果を用いた。

【研究デザイン】 本研究は、2つのデータセットを分析しているが、1つめの量的研究結果（対応分析）を2つめの質的研究結果（原文参照の内容分析）が補完している形態であり、Mixed Methods Researchの「埋め込みデザイン」に該当する。

【分析方法】 地域作業療法学受講経験有の265人のデータから、在学中地域作業療法に関わりたいと「思った」「思わなかった」、それらの理由についての自由記述データの使用語の出現頻度との関連についてText Mining Studioを用いたテキストマイニングによる対応分析を行った。なお、重要な名詞3語については原文参照データを用い、質的帰納的な分析を行った。

結果

1. 地域作業療法の授業を受けた人のなかで
地域作業療法に関わりたいと「思った」「思わなかった」人数・割合と、それぞれの重要名詞の上位3語

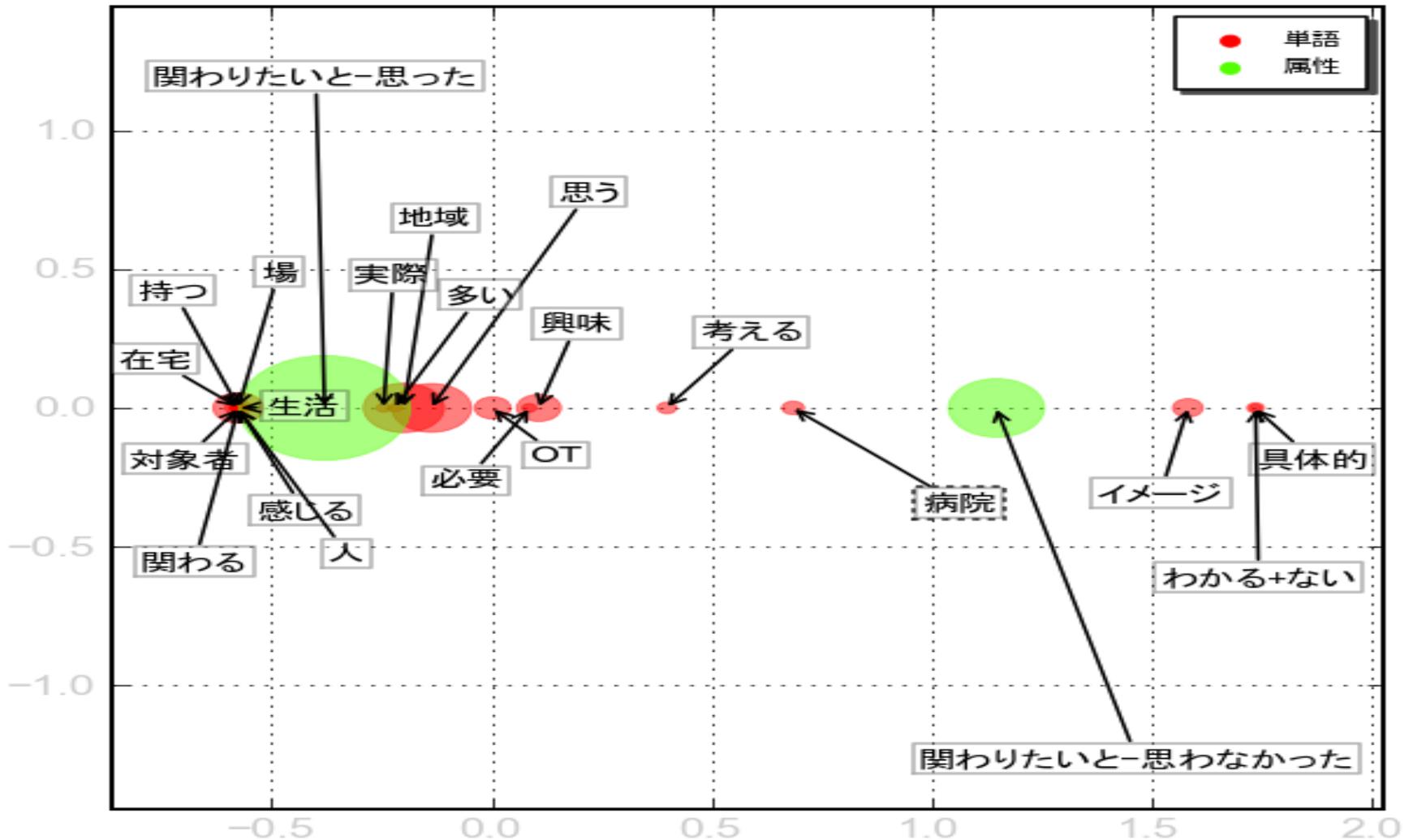
関わりたいと「思った」「思わない」	重要名詞上位3語
思った（170名、64%）	「生活」「地域」「対象者」
思わなかった（95名、36%）	「イメージ」「具体的」「病院」

2. 重要名詞の全体頻度・属性頻度と指標値

関わりたいと思った		関わりたいと思わなかった		全属性特徴単語			
単語	品詞	品詞詳細	属性頻度	全体頻度	指標値	単語	(一)
1 生活	名詞	廿変接続	56	56	35.792	生活	
2 地域	名詞	一般	72	86	24.115	地域	
3 対象者	名詞	一般	18	18	11.505	対象者	
4 場	名詞	一般	16	16	10.226	場	
5 人	名詞	一般	16	16	10.226	人	
6 在宅	名詞	廿変接続	14	15	7.383	在宅	
7 訪問リハ	名詞	一般	10	10	6.391	訪問リハ	
8 機会	名詞	一般	8	8	5.113	機会	
9 自宅	名詞	一般	8	8	5.113	自宅	
10 重要	名詞	形容動詞語幹	8	8	5.113	重要	
11 地元	名詞	一般	8	8	5.113	地元	
12 実際	名詞	一般	12	14	4.541	実際	
13 密着	名詞	廿変接続	7	7	4.474	密着	
14 支援	名詞	廿変接続	6	6	3.835	支援	
15 OT	名詞	一般	28	37	3.815	OT	
16 高齢者	名詞	一般	5	5	3.196	高齢者	
17 障害	名詞	一般	5	5	3.196	障害	
18 リハ	名詞	一般	7	8	2.909	リハ	
19 環境	名詞	一般	7	8	2.909	環境	
20 実習	名詞	廿変接続	9	11	2.623	実習	

関わりたいと思っ		関わりたいと思わなかつ		全属性特徴単語			
単語	品詞	品詞詳細	属性頻度	全体頻度	指標値	単語	
イメージ	名詞	一般	29	31	44.095	イメージ	
具体的	名詞	形容動詞語幹	17	17	26.598	具体的	
病院	名詞	一般	12	22	12.384	病院	
経験	名詞	サ変接続	6	8	8.109	経験	
地域作業療	名詞	一般	5	5	7.823	地域作業療	
知識	名詞	一般	4	5	5.619	知識	
印象	名詞	一般	4	6	4.980	印象	
イメージ+で	名詞	一般	3	3	4.694	イメージ+で	
急性期	名詞	一般	3	3	4.694	急性期	
程度	名詞	一般	3	3	4.694	程度	
内容	名詞	一般	3	3	4.694	内容	
領域	名詞	一般	4	7	4.341	領域	
メイン	名詞	一般	2	2	3.129	メイン	
意識	名詞	サ変接続	2	2	3.129	意識	
回復期	名詞	一般	2	2	3.129	回復期	
技術	名詞	一般	2	2	3.129	技術	
業務内容	名詞	一般	2	2	3.129	業務内容	
勤務+したい	名詞	サ変接続	2	2	3.129	勤務+したい	
経験+ない	名詞	サ変接続	2	2	3.129	経験+ない	
小児	名詞	一般	2	2	3.129	小児	
精神科	名詞	一般	2	2	3.129	精神科	
卒後	名詞	一般	2	2	3.129	卒後	
他	名詞	副詞可能	2	2	3.129	他	
地域作業療	名詞	一般	2	2	3.129	地域作業療	
当時	名詞	副詞可能	2	2	3.129	当時	
当初	名詞	副詞可能	2	2	3.129	当初	

3. 対応バブル分析結果—授業経験有のみ—



4. 原文参照内容分析の結果 「生活」

●生活支援の関心(35)	
生活支援の関心(21)	
1 2000-	生活に直接関わりたいと思ったから。
2 2000-	実習の際に訪問リハを見学する機会があり、興味を持った。実際にその人の生活に直接アプローチできるので関わりたいと思った。
3 2000-	生活に密着していきそうだったため。
4 2000-	地域社会、在宅での生活にOTとして関わりたいと思ったから。
5 2000-	OTとして、病院の中のリハだけでなく、地域の中でどのように生活していくかを考えていくのが必要と感じたため。
6 2000-	PTよりOTが生活している身近なところでリハができるから。
7 2000-	生活より地域根ざした治療を行いたいと思ったから。
8 2000-	なるべく住み慣れた地域で生活するサポートをしたいと思ったため
9 2000-	生活の場＝リハビリテーションに直接結び付く印象。いつか関わりたいと思った。
10 2000-	生活の主体である地域での自宅生活を支援したいと思ったから。
11 2000-	対象者の生活により近くで関われると感じた。
12 2000-	在宅で生活を送る方の支援について興味があったから。
13 2000-	生活の場に密着した活動ができると思った。
14 2000-	より生活に密着した支援が出来る場所に関心を持ったため。
15 2000-	在宅での生活の手助けができることに興味を持ったから。
16 2000-	地域に貢献したいと思ったから。地域で生き生きと生活する援助をしたいと思ったため。
17 2000-	講義内容が大変興味深く、OTは地域で生活していくということと密着している仕事と感じたため。
18 2000-	実際の生活の中で、困っていることをどうにかしてできるようになってもらいたいと思った。
19 2000-	地域で働くOTは生活と密着していると感じ、やりがいがあると思ったから。
20 2000-	実習で訪問リハビリに行き、地域で生活する人の支援を行いたいと感じたため。
21 2000-	高齢者が実際に生活している地域で生活の手助けができればと思ったため。
自立支援ができる場(1)	
1 2000-	生活の場での関わりで自立できる方は多いと感じたため。
その人らしさを支援できる場(2)	
1 2000-	生活している`地域`でOTとして関われることは、よりその人らしさを引き出せる環境であり興味があった。
2 2000-	その人がその人らしく生きるには地域での生活が必要になる場合があると思うから。
地域に関わる人を巻き込んだ関わりへの期待(1)	
1 2000-	対象者が実際に生活している環境でリハができるから。一人の対象者に関わるだけでなく、その地域に関わる人々を巻き込んだ関わりができ
ICF・参加への着眼の必要性の認識(1)	
1 2000-	対象者の方の生活を支えるためにはICFという参加の部分にも目を向けなければならないと感じたから。
病院で行う機能回復訓練とは違った生活支援への興味・関心(3)	
1 2000-	生活の現場でなければ見つけられない問題があると考えていたから。
2 2000-	病院ではなく在宅で生活する方に興味があったため。
3 2000-	機能回復だけではなく、人間として生活に自宅での密着したリハビリが行えるのは、とても魅力的だと思った。
授業から感じた魅力(1)	
1 2000-	退院後の生活が気になったため。大学の先生に地域の魅力を教えてもらったため。
生活支援の重要性の認識(2)	
1 2000-	実習の際、訪問リハビリの場面を見学させていただく機会があり、在宅で生活をしていくことが重要と感じたから。
2 2000-	実際に対象者の生活する環境の中で取り組むことは大切だと感じたため。
作業療法の特徴を活かせる場(3)	
1 2000-	生活を見る作業療法士の私のイメージと一致したから。
2 2000-	生活の場でありOTの特徴を活かせると思った。
3 2000-	地域に出て対象者の生活の場に行き、関わることにOTらしさを感じたから。
●対象者の生活の場が地域であり、地域への介入が必要(4)	
1 1990	対象者の生活の場は地域であることが多い、理解を得て長く地域で生活・活動していくための双方への関わりが重要だから。
2 2000-	対象者の生活する場所の拠点が自宅であり、地域への介入が必要となるため
3 2000-	生活の場が自宅であり、地域で生活していく時間が長いことから、地域で支える作業療法が必要であると考えたから。
4 2000-	入院日数の短縮・少子高齢化など社会の変化の中で必要性が高まって行くと思うから。また、対象者の生活する場で行える生活の場に応じた関わることは魅力的でOTの専門分野だと思うから。
●生活の場は地域である(10)	
生活の場は地域である(8)	
1 2000-	対象者が生活している場所は、地域にあり、病院・施設はその一部にすぎないため。
2 2000-	自宅、地域が実際の生活の場だから。
3 2000-	病院や施設だけでなく、家で生活しながら訪問リハ、デイサービスなどを必要とする人も多くいるため。障害を患ってしまった方が地域社会に戻るためのお手伝いをしてみたかった。病院、施設には長くいることは不可能だし、対象者自身も皆、
4 2000-	今までの生活の場で過ごしたいと思う人がほとんどだと思ふから。
5 2000-	生活は地域の中で行っていくものだから。
6 2000-	これからは、施設・病院での生活ではなく、自宅、地域での生活が重要になってくると思ったため。
7 2000-	人が生活しているのは地域だと思うため。
8 2000-	生活の場が地域だから。
在宅生活する高齢者が増えたため(2)	
1 2000-	高齢化社会で在宅での生活が重要となる為。自宅で生活を希望する方が多いため。
2 2000-	在宅で生活している高齢者が増えてきたため。

「地域」

●病院・施設の枠を超え、地域で支援をしたい(12)

病院や施設の枠を超えた支援をしたい(2)

- 1 2000- 病院や施設にいる利用者だけではなく、地域に住んでいる人も対象としたりハビリをしたいと考えていたため。
- 2 2000- 病院という枠だけではなく地域と連携することで患者様にとってよりよくたずさわれると思ったから。

主たる生活場所は地域だから(10)

- 1 1990 対象者の生活の場は地域であることが多いし、理解を得て長く地域で生活・活動していくための双方への関わりが重要だから。
- 2 2000- 主たる生活場所は地域であり、対象者がその環境でその人らしく暮らせるように支援することは最もOTらしいと思ったから
- 3 2000- 対象者が生活している場所は、地域にあり、病院・施設はその一部にすぎないため。
- 4 2000- 自宅、地域が実際の生活の場だから。
- 5 2000- 生活の場が自宅であり、地域で生活していく時間が長いことから、地域で支える作業療法が必要であると考えたから。
- 6 2000- 生活は地域の中で行っていくものだから。
- 7 2000- これからは、施設・病院での生活ではなく、自宅、地域での生活が重要になってくると思ったため。
- 8 2000- 人が生活しているのは地域だと思うため。
- 9 2000- 人の住むところは病院や施設ではなく地域が自然だから。
- 10 2000- 生活の場が地域だから。

●その他(2)

- 1 2000- 老健＝地域のイメージ
- 2 2000- 地域の特性によって異なるため。

「対象者」

●対象者の生活の場での支援はOTらしい(5)

- 1 2000- 主たる生活場所は地域であり、対象者がその環境でその人らしく暮らせるように支援することは最もOTらしいと思ったから
- 2 2000- 入院日数の短縮・少子高齢化など社会の変化の中で必要性が高まって行くと思うから。また、対象者の生活する場で行える生活の場に応じて関われることは魅力的でOTの専門分野だと思うから。
- 3 2000- 対象者が住んでいる地域ではどのような行政の仕組みがあるのか、また、その仕組みの中で何が必要なのか、OTは何を求められているのかを追求したかったから。
- 4 2000- 対象者の目的の作業は、在宅、地域にある場合が多く、OTの活躍がより強く出る領域と思った。
- 5 2000- 地域に出て対象者の生活の場に行き、関わることにOTらしさを感じたから。

●地域は対象者の生活の場であり、地域での介入が必要(9)

- 1 1990 対象者の生活の場は地域であることが多いし、理解を得て長く地域で生活・活動していくための双方への関わりが重要だから
- 2 2000- 対象者の生活する場所の拠点が自宅であり、地域への介入が必要となってくるため
- 3 2000- 対象者が生活している場所は、地域にあり、病院・施設はその一部にすぎないため。
- 4 2000- 対象者が実際に生活している環境でリハができるから。一人の対象者に関わるだけでなく、その地域に関わる人々を巻き込んだ関わりができるから。
- 5 2000- 対象者の暮らしのためにOTとして働きたいと思ったため。
- 6 2000- 対象者と関わる上で地域連携、他職種との関わりも交え、支援にたずさわりたいと思ったため。
- 7 2000- 対象者の生活により近くで関われると感じた。
- 8 2000- 実際に対象者の生活する環境の中で取り組むことは大切だと感じたため。
- 9 2000- 対象者が生活している場で直接関われるから。

●対象者のQOLを改善する支援ができるのが地域(3)

- 1 2000- 対象者の生きがいをより支援できる気がしたため。
- 2 2000- 対象者の方の生活を支えるためにはICFという参加の部分にも目を向けなければならないと感じたから。
- 3 2000- 地域の人との関わりが対象者を変える重要な要素の一つだと知ったから。

「イメージ」

●イメージがわきにくかった(22)

イメージがわきにくかった(12)

1	1990	イメージがわきにくかった。
2	2000-	思わなかったという関心が薄く、イメージが付きにくかったと思う。
3	2000-	地域作業療法がどんなことをしているかイメージがつかなかったから。
4	2000-	イメージがわかなかった。
5	2000-	地域作業療法学の内容は一つもインパクトがない。地域に根づいたRHをと前から興味はあるが、あまり授業の中身でそのようなイメージが残らなかった。その実習もpt持たず業務を経験するという実習であり、いい経験にはなったが、地域のOTというイメージはつながりにくかった。
6	2000-	当時は地域でリハビリテーション、障害がない方への予防のイメージ、これらがなかった。
7	2000-	イメージがわからない学生時代。
8	2000-	地域作業療法学がさわる程度で、イメージがつかなく選択に入らなかった。
9	2000-	イメージが付きにくかった。
10	2000-	イメージがわかなかった。身体・精神・老年・発達のどれかしかないと思っていた。
11	2000-	地域におけるOTのイメージがわからなかった。
12	2000-	当初は地域そのものにOTが入ることにイメージがわかなかった。病院や老健、精神科で主に活躍している印象があった。

具体的なイメージがわかなかった(10)

1	2000-	具体的なイメージを持つことが出来なかった
2	2000-	具体的なイメージができなかった。
3	2000-	具体的なイメージが付きにくかった。
4	2000-	具体的なイメージが、座学では得られなかったため。
5	2000-	具体的なイメージがわかなかったから。
6	2000-	情報が少なく、具体的なイメージがわからなかった。
7	2000-	業務内容のイメージがしづらかった。
8	2000-	具体的でなく、イメージができなかった。
9	2000-	具体的なイメージがあまりわかなかった。就職の選択肢として地域が存在しなかった。
10	2000-	具体的に地域作業療法のイメージがよくわからなかった。

●難しいイメージがあった(2)

1	2000-	実際のイメージが持ちにくかった。多くの経験が必要とされる分野であり、卒後に働く場所として、ハードルが高い印象であった。
2	2000-	難しいイメージがあったため。

●病院で働くイメージが強かった(4)

1	2000-	病院で働くイメージが強いため
2	2000-	臥床とほど遠いイメージがあるから。
3	2000-	地域リハについて漠然としており、リハ＝病院主体というイメージだったため。
4	2000-	OTになりたいと思っていたときにイメージしていたリハビリの姿とちがひ、魅力が伝わらなかった。

「具体的」

●具体的なイメージがわからなかった(13)

- 1 2000- 具体的なイメージを持つことが出来なかった
- 2 2000- 具体的なイメージができなかった。
- 3 2000- 具体的なイメージが付きにくかった。
- 4 2000- 行う内容が、幅広い知識と経験を必要とする難しいものという印象が強かった。具体的な仕事をイメージできなかった。
- 5 2000- 具体的なことがわからなかったから。興味の対象として認識部不足だった。
- 6 2000- 具体的なイメージが、座学では得られなかったため。
- 7 2000- 具体的なイメージがわからなかったから。
- 8 2000- 具体的なイメージがなかったから。
- 9 2000- 情報が少なく、具体的なイメージがわからなかった。
- 10 2000- 病院や施設以外でOTを行うということに対して具体的に想像できなかったのも、興味がわからなかったため。
- 11 2000- 具体的なイメージがあまりわからなかった。就職の選択肢として地域が存在しなかった。
- 12 2000- 地域作業療法ということが具体的にイメージできなかったから。
- 13 2000- 具体的に地域作業療法のイメージがよくわからなかった。

●具体的に考えていなかった(1)

- 1 2000- 具体的に考えていなかった。

●具体的に何をしたらよいかわからなかった(2)

- 1 2000- 地域作業療法についての知識が乏しく、具体的にどういふことでの関わりなのかがわかっていなかった。
- 2 2000- 具体的に何をしたら良いかわからないから。

「病院」

●病院で働くつもりだった(8)

- 1 2000- 当初は勉強のため、急性期の病院に勤務したいと考えていたため。
- 2 2000- もともと精神領域に進み、病院だけでの関わりを考えていた。
- 3 2000- まずは、病院で知識や技術を得たかったから。地域の作業療法士は少ないように感じていたから。
- 4 2000- 精神障害領域、病院に興味があった。
- 5 2000- 病院で働きたいと思っていたから。
- 6 2000- 在学中は地域でどんなことをしているのかわからず、病院で働きたいと思っていたから。
- 7 2000- 働く場所が病院・施設がメインだと思っていたため。
- 8 2000- もともと病院で勤務したいと思っていたから。
- 9 2000- OTの知識を得るには病院に就くことが最良と考えたから。

●病院で働くイメージが強かった(1)

- 1 2000- 病院で働くイメージが強いため

●病院以外での作業療法がイメージできなかった(2)

- 1 2000- 病院や施設以外でOTを行うということに対して具体的に想像できなかったため、興味がわかなかったため。
当初は地域そのものにOTが入ることにイメージがわかなかった。病院や老健、精神科で主に活躍している印象があった。
- 2 2000-

考察

- 受講後「地域作業療法に関わりたかった」と思った人たちは、対象者の生活の場は地域であること、病院・施設の枠組みを超えて地域で生活支援を行うことが対象者のQOL向上のために重要であり、作業療法らしさがあることを認識し、地域での生活支援に関心を寄せていた。
- 受講後「地域作業療法に関わりたかったと思わなかった」人たちは、地域作業療法に難しいなどのネガティブなイメージや、具体的イメージを持てていなかった。また病院で働くイメージを強く持っていた。
- 以上の結果より、地域で働く作業療法士の増加のために教育課程では、教育方法として、地域生活支援や対象者を仕事をイメージ化しやすい視聴覚化したナラティブ教材等を用い、間接的経験によるリアリティのある講義内容の提供が必要であると考えた。